

CMMI、SICP ヒストリー

当社の CMMI(注 1)と SICP(注2)へのこれまでの取り組みをまとめました。

CMMI レベル 3 達成へ向けて(2003 年～2006 年)

時期	活動内容
2003 年末	CMMI に取り組むべく中心メンバー3 名を選抜し調査を開始。その結果、当社が従来実践してきた方法論と大きな差異がないことが判明。
2004 年夏	CMMI に基づいて当社独自の開発標準を策定することを、会社方針として決定。
2005 年	プロジェクトマネジメントレビュー(以下 PMR)を開始。
2005 年 5 月～6 月	CMMI のコンサルティングを依頼する会社を探し始める。
2005 年 8 月	(株)大和コンピュータ様にコンサルティングを依頼することに決定。中心メンバー 8 名が CMMI のトレーニングを受講。
2006 年 9 月	公式アプレイザルを実施し、CMMI レベル 3 を全社で達成。
2006 年 10 月	公式アプレイザルでの指摘事項を踏まえて、当社開発標準である SIC system Integration Control Process(以下 SICP)をリリースし、SICP に基づいた形での PMR を本格的に開始。

CMMI レベル 4 達成へ向けて(2007 年～2010 年)

時期	活動内容
2007 年 11 月	全プロジェクト対象の PMR の運営が定着し、以前と比較して失敗プロジェクトが格段に減少。PMR の効果が顕著に現れていることから、さらに上を目指してレベル 4 に向けて取り組むことを会社として決定。
2008 年～2010 年	レベル 4 を達成するための課題として、プロセスパフォーマンスモデル(以下 PPM)の構築と、PPM の各種数値の定量的管理のための統計技法や、管理図の選択などの多くの課題が挙げられ、その対応と定着化に多くの労力と時間を費やす。
2010 年 9 月	公式アプレイザルを実施し、CMMI レベル 4 を全社で達成。
2010 年 12 月	公式アプレイザルでの指摘事項も踏まえて、CMMI レベル 4 を包括した形で SICP ver.2.0 をリリース。PMR もスタートから約 5 年経過したため、多数のプロジェクトから実績数値も集計可能となり、PPM がより強固のものとなり、失敗プロジェクトも限りなくゼロに近づいた。

CMMI レベル 5 達成へ向けて(2011 年～)

時期	活動内容
2011 年 1 月	全社で CMMI レベル 5 の達成を目指すことを、会社として決定。
2011 年 2 月～	CMMI レベル 4 をベースにした継続的改善を可能とするために、Critical Chain Project Management (CCPM)の導入、及び Theory of Constraints (TOC)による課題解決の手法の導入を開始。
2012 年 11 月	公式アプライザルを実施し、CMMI レベル 5 を全社で達成。

副社長 鈴木からのメッセージ

CMMI や SICP の適用によるサービス品質の強化

当社では全プロジェクトが SICP を適用し、各技術者が SICP を通じて CMMI のベストプラクティスを日々実践しています。経営陣が参加して行うプロジェクトマネジメントレビューも SICP に忠実に従って実施しています。結果として、仕事の見える化、標準化が実施され、会社として個々のプロジェクトを支援できる体制が確立され、サービス品質の向上に繋がっています。

SICP に基づく研修によるキャリア採用の即戦力化

CMMI への取り組みの効果もあり、当社は顧客の信頼を得て事業も順調に拡大しています。その結果、常時技術者の不足に悩まされており、キャリア採用による戦力の増強が不可欠となっています。

当社ではキャリア採用の技術者に対しては SICP に基づく研修の受講を必須としており、この研修を通じて早期に新戦力として活躍することが可能な制度を整えています。

実際にキャリア採用入社の社員に聞いてみると、「SICP を通じてこれまでの経験を体系化できた」「これまで見落としてきた開発の重要な勘所を学ぶことができた」「仕事の立ち上がりをスムーズに行うことができた」などの声があがっており、好評を得ています。

注 1) CMMI(Capability Maturity Model Integration)

米国カーネギーメロン大学(CMU)のソフトウェア工学研究所(SEI)が開発したソフトウェア開発プロセスの能力成熟度モデルです。組織のプロセス能力(成熟度)を 5 段階で評価し継続的な改善を促す、体系的なプロセス改善のためのモデルです。現在ではソフトウェア開発能力を測る国際標準的な指標となっています。

注 2) SICP (SIC system Integration Control Process)

PMP(注 3)や CMMI をベースに 30 年に及ぶ開発ノウハウを注入して策定した開発標準です。SICP を全社のプロジェクトに適用し、お客様より高い評価をいただいています。

注 3) PMP(Project Management Professional)

米国 PMI(Project Management Institute) が認定するプロジェクトマネジメントに関する資格です。PMI が発行する知識体系ガイド(PMBOK = A Guide to Project Management Body of Knowledge)に基づくプロジェクトマネジメントエリアに関する知識と理解度をはかることをその目的としています。現時点ではプロジェクトマネジメントに関する国際標準的な資格となっています。